



# 紙の力、字の力

## 出雲 充

世界で日本の技術力が評価されている。例えば新幹線。車体の性能はもちろん、めったに乱れないダイヤなど運用技術も驚きをもって評価される。けれど私はずっと身近に日本が世界に誇れるものがあると思っっている。それは日本の紙の品質と印刷の技術だ。これは海外の書店をめぐって実感できる。書籍、雑誌に使われている紙と印刷のクオリティーは日本が十年は先を行っている。だから外国へ出張する際の先方へのお土産は『地球博物館大図鑑』（東京書籍）をはじめとする図鑑類にしている。これがとても喜んでもらえるのだ。相手はたいいてい研究者なので、日本語が読めなくても学名が欧文で表記されているから問題ないし、なんとと言ってもグラフィックの美しさ、写真の再現性が忠実に喜ばれるというわけだ。寿司の図鑑も人気が高い。

先日、文京区にある印刷博物館に行っただけで、また素晴らしい体験をした。自分で金属の活字を組み、インクをつけて名刺大の紙に（ミドリムシ）と印刷した。素人の私でも滲まず綺麗に刷ることができて素直に感動した。しかしその簡単な印刷一つをとっても、活字の金属、紙、インクそれぞれの分野が協力し合って複合的な研究の末に出来上がった技術なのだ。つまり世界にないオンリーワンの技術がそこに完成するのだ。

紙の魅力はまだある。私は小学校五年生の頃から蛍光ペンを使い始めた。このペンのおかげで私の勉強方法が確立した。その方法は今でも変わっていない。教科書を開いてまずちょっとでも気になった文章には黄色のペンで色をつける。更に大字や括弧などで強調された大事そうなところを緑色でマークする。何回も間違えて、覚えられなかった箇所はピンク色で塗る。すると色が「きっかけ」になってテストのときには「あの黄色の隣の緑は確か△●□だったはず。だからピンクは——」と芋づる式に記憶が喚起されるのである。私は月に三十冊は本を読むようにしているが、その中には電子



いずも・みつる ●(株)ユーグレナ代表取締役社長。1980年、広島県生まれ。02年東京大学農学部卒業。大手銀行に就職するもミドリムシを大量培養して食品化し、最貧国の食料事情を変えたいという想いを実現させるため05年に(株)ユーグレナを設立。現在は食品・化粧品販売に加え、バイオ燃料なども開発中。信念は「ミドリムシが地球を救う」。

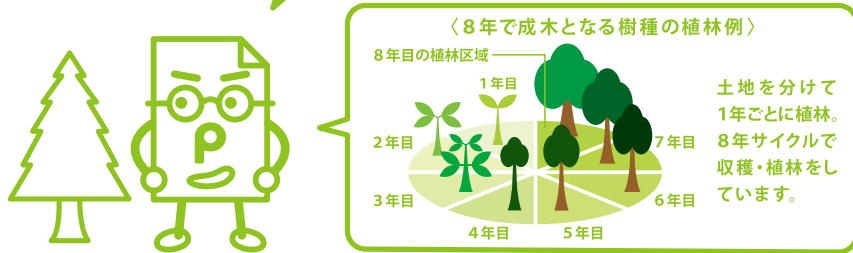
(株)ユーグレナ社内にて。

書籍もある。最近気づいたのだが、印刷された本の内容は例の蛍光ペン方式で知識として記憶されるが、端末で読む電子書籍はこの方式が使えないのでなかなか内容がはいってこない。最初は「ついに老化が始まったか！」とヒヤリとしたが、どうやら違うようでほっとした。直接書き込める紙の力は侮れない。

手紙のありがたさも身に沁みている。ユーグレナ（ミドリムシ）の食品が売れずに途方に暮れていたとき、あるユーザーから初めて手紙をいただいた。「長年数多くの健康食品やサプリメントをためてみたが、無駄だった。ワラをも掴むつもりでユーグレナを一年間摂り続けてみたら見事によくなった」と健康診断の結果のコピーまで同封してある感謝の手紙だった。いまでも時々この書簡を開くことがある。紙に書かれたその文字はいつでもどこでも私を勇気づけてくれるのだ。

### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

**紙づくりは、「森想い」なんです。**  
 まず植えて→育てて→伐ったら→また植える。植林で森をうまく循環させながら、紙をつくっているんだって。これらの森のほとんどは、もともと使われていない牧草地や荒地だった場所。製紙会社は、自然の森に迷惑をかけないように、森をつくりながら紙をつくっているんです。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、[「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。](http://kamitsubu.com/)